



4/7 (Sun) 知多半島 武豊港 晴れ・風(強)・やや寒

釣果: P1+X (30cm), P1+X (10cm) ... 共に柴田英輔氏。
赤松・森下・刈谷・柴田・深津・中村

前回(3/23)の雪辱をはらすべく、事前の情報収集に徹した今回。

こうして収集した情報を元に、TF (Target Fish) をP1+X一本に絞り込み、ピンポイント釣法を用いることになった。武豊港は、5月下旬までP1+Xが期待でき、さらにこの時期は良型も少なくない。時の点々。最適のポイントと言っても過言ではなかった。前夜、柴田と中村との連絡がつかず、柴田・赤松・森下・刈谷が万全の備えをしいた一方、中村と深津は早朝5:00まで麻雀卓を囲んでいた。やはり、事前の打合わせは最低。前夜までに済ませておくことの必要性を痛感した。Anyway、当日、新規購入した7のフラーボックスもトランクにつまみ、13:00に金山を出発のバス。ところが柴田が突然のハプニングに遭遇し、何とか事無きを得たものの、13:30の出発。今回は、有料道路(大高-武豊間 500円)を利用したこともあり、15:00には武豊港に到着。東ちんちの名古屋走りも完成の域に達した。さて、地元のお屋「えん新」に寄って、P1+X用フラー(1・2号)、各250円、石ゴカイ2Mを買って、いざ、ポイントへ。

今回の隠れた目的は、新規メンバー赤松・森下・刈谷の3人の根性試しであった。

「自分の事は自分でね!」このBack Rush 創立以来の基本コンセプトにどこまでくわいついてくることができるか。これをテストの意味で、目の前に針とゴカイを出出してみる。すると予想に反し、3人とも何なく針をゴカイの首元に突き立て、ゴカイの体内に針を沈めていく。ふき出す体液にも動じることなく、次の瞬間には、フッカーをつまんでいる。強い、熱い、竹ている。俺は、自分自身を取じた。一瞬でも、3人が奇声を発しながら逃げた場面を想像した自分を。ここで無事、Back Rush エリートテストをパスした3人も含め、全員が竿を出し糸をたらし始める。フラーの他、柴田・深津・中村は、カイ狙いを含めた投げ釣りも併せてのスタート。

潮が満ちてくるのに合わせて、アタリの数も増していく。しかし、ゴカイの下半身ばかり食い逃げされて、ヒットにはなかなか結びつかない。しかし、開始後2時間、柴田のフラーに今回初のFish On! 釣り上げてみると10cm強のP1+X。歓み込んだばかりをはずし、CB (Cooler Box) へ。水面をはねる姿は見えるが、かからぬという状態にアタリていた一同に再びヤル気がたぎる。しばらくして、再び柴田の竿にヒット。根掛かりがと間違えるほどの強い引きに、竿をにぎる手に力がこぼる。バラされるのを気をつけながら取り込んでみると、30cmオーバーのP1+X。Big One! 周囲の地元ツッパおやじさんたちからも歓声上がる。これを最後に、あとは終わりのまでアタリトナリの結果は出せなかった。しかし、この一匹で、全員 so satisfied. 帰路、柴田邸で、P1+Xを煮魚にして食卓を囲む。目をむけながら内臓を突き出していた刈谷。最後まで、あきらめずに竿を握っていた赤松のフラーも脱帽。

ともあれ、今後のBack Rushの活動にも期待できることが分かった今回だった。(♪)
オリジナルCBもネムが入り、今後はフル出場必至。

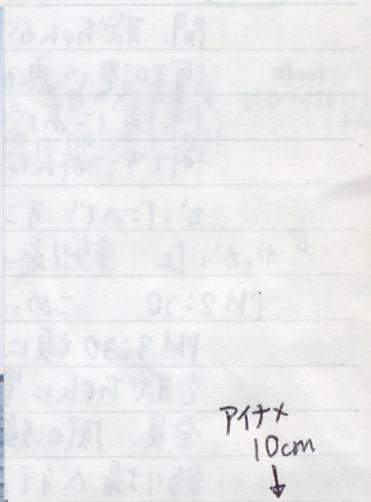
One Point Check. (O.P.C.) 才1回. え之の付け方. by. え之新に-ちん



悪い例.

(下半身が巻きついたらまず.)
(魚が食わない)

良い例. (え之の体が一直線にならなくて、針による
不自然な体のまがりが無い)



17x
10cm
↓

